コミュニケ往来
No.12
コミュン好き者会
発行所
大阪府寝屋川市木田町八一二一
近藤 方 ☎ 二五七二
送料共 30円
切手も可

5月例会報告

好き者会はどこへいくの？

二十三名の参加で、自己紹介の後備北共同体の至過、好き者会のあり方について話された。

備北共同体の至過報告

71年3月キャンプ（見会い）

5月連休 〃（共同体運動としての出発）

7～8月 夏キャンプ

10月収穫キャンプ（備北だより）

72年1月正月キャンプ（百人委生）

3月春キャンプ（問題表面化）

5月連休キャンプ（オ一次備北共同体運動の終了。オ二次）

71年夏キャンプ以後、共同体像の混乱があり、つまり生産労働共同体と、とらえる部分と脱体制共同体と、とらえる部分があった。そこで共同体像の明確化が話され、個別備北では、「備北だより」

―コンミュン往来と違った性格のものとして、連絡紙が生れた。

正月キャンプでは、今後の方針が話され、百人委方式（組織、支援団体ではなく運動体）が提案された。しかし春キャンプで、今井さんとの間でくい違いが表面化した。つまり「土地に関して今井さんの私有という事」「農業のとらえ方」「知識、技術の差」等。又労働契約、任務分担、生産物の私有、共同財布、キャンプ・共同性に対する評価のくい違いも出る。結論として、備北において表面化した普遍的な問題を、運動体としての百人委方式を確保し、実質化へ。

Ko「コミュン往来」「コンミュン好き者会」のあり方についてどう考えますか。

Sp活動の連続の場。連絡機関か、研究理論をつくっていく場。

Ka共同体―具体的には農場における関係性の追求。日常から考えていきたい。自分の立脚点から出発したい。具体的には生協運動から参加した。つまり、自分のしぼられている生活空間から出発したい。

Ka日常性といわれたけれど、その中でも共有している部分を、はっきりさせていけたらと思う。具体的には、共同体像の明確化。

Ha好き者会とは各個人の発表の場。

Oh だけど発表の場だけなら、つみ重ねが出来なくなると思う。だから好き者会に長くかかわっている人たちの今までの至過のつみ重ねが必要と思う。

Ha進行の方法で全体集会的なのは、しょうがない。その欠点は、同じ問題意識をもったものが少グループで研究会をもつ事で補う。だから情報の交換の場でいいと思う。

Oz内容のある集会にしていくという事でいいんとちがうかな。問題提起をどんどん出していくべきだ。共同体には、色々問題がある、そういう問題を共有して、皆の問題としてべき。特に備北において表れてきた事について。

最後に、スウェーデンからボランティアとして来日したベン氏の参加があった事をつけ加えておきます。

共同体 地固めとしての読書会

共同体を志向すると口走ってみても何にもしなかったら それこそ公害の空に浮ぶアドバルーンとこしてしまうと思って 四月から読書会を始めました。名前は 苦しまぎれに"現代史研究会"とかいうあまり関係のない代物です。目下は 定まった会場が持てなくて放浪の身ですが、何とか四回を重ねています。参加者は私を含めて六人 どういうわけか女の園なのです。やっている本は まず手始めに現代の状況と変ってきたのなら何でもというので パッペンハイム著"近代人の疎外"。因に ささやかれたことを少々書いてみます。

△技術と疎外について―労働者は生産物の関係式が成立する時 労働は疎外でなくなる。ところが 労働という行為に必然的に伴う人と物との間の空間が、現在の高度技術に支配られた管理機構を生んでいる。それならば その隙間を埋く者の手中にとらえることが先決であろうが、生産物並びに生産手段の共有、自主管理体制を実現させたって、科学技術の現状に立脚する限り 労働そのものと労働者との関係は、芸術家と創作活動のような関係にはならないのではないか？それなら 知識・技術等の共有 即ち能力差を特性の差とする 量でなく質に価値基準を置く生産共同体とは？

△政治と疎外について―多くの人口と広範な地域を含む大衆社会において 個人の意志が集団の意志との関わりを見失わないためには、個―集団の間に 政治という自己権力を持つた概念を差しはさまないコンタクトな体制が望まれる。それは 時代の逆行としての直接民主制への道ではなく、間接民主制を生んだ機能上の要請に応えつつ、社会を自己の内に取り込もうとする運動をめざす。イメージとして、個人が直接関わる最少単位としての共同体と その共同体間の有機的関係：コトバだけかな…

△社会構造と疎外―テンニエスの言うゲマインシャフト（全人格的関係）ゼルシャフト（契約的関係）と移行する歴史の流れを認めると、次に来るものは、類的存在としての個が、その意志に従って創造する共同体社会ではなかろうか。などなど 空言に満ちてとにかく、私が主体として何かと関わることから歩き始められるのでは